



境にて

(撮影：桐原佳介)

ヒレンジャク

■出合えて嬉しい里の冬鳥
頭の形が個性的な冬の使者。尾の先端が赤くなっていることから、緋色の緋で「緋連雀(ヒレンジャク)」と呼ばれています。姿が似ているキレンジャクは、尾の先が黄色いことで区別されます。町内の各所で飛来が確認され、昨年は桜の並木にいる群れと遭

■ネコが捕まえてきた！
今年の3月7日、口絹屋のM田さんから、ネコがヒレンジャクを捕まえたこと、ご連絡を頂きました。大急ぎで出かけて鳥を見せて頂くことに。まぎれもなくヒレンジャクで、殆ど傷がなく、標本として引き取ることになりました。そのヒレンジャクの口の中には、青い実が沢山つまっていたのです。ジャノヒゲという地面に生えている8ミリくらい

遇したりもしました。キレンジャクは北半球に広く分布していますが、ヒレンジャクの生息域はとても狭く、シベリア東部から中国北東部の一部で繁殖し、寒くなると主に西日本や韓国に南下します。ムクドリサイズですが、鳴き声がとてもか細く、小さな声でチリチリチリとかピーピーと聞こえます。上を見上げて樹上や電線、アンテナなどを探してみましよう。声のわりに大きな集団と出会えるかもしれません。



桜並木で見られるヤドリギ

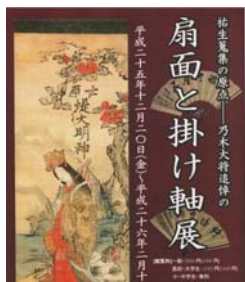
自然観察指導員 桐原真希

食べている生き物を初めて知りました。恐らく、町内産初のヒレンジャクの剥製になるかと思えます。地元の方の情報に感謝です。
■ヤドリギとの関係
ヒレンジャクは、好んでヤドリギの実をよく食べます。丸ごと飲み込んだ後、粘り気のある糞を出して、それを枝に絡ませるにより、種子散布の仕事をさせられています。町内の大きな樹が葉を落とした後、円形の緑の塊が見えたら、ヒレンジャクやキレンジャクがそこで粗相をした証拠。あなたの近所にも、小声の寝ぐせ頭の小鳥がやってきているかもしれません。この冬、ぜひ探してみてください。

祐生出会いの館【緑水湖畔】インフォメーション

■開館時間：9時～17時 ■休館日：毎週火曜日
※12月29日～1月4日は休館

『祐生蒐集の原点—乃木大将追悼の扇面と掛け軸展』 12月20日(金)～2月11日(火)



祐生は、乃木大将追悼の展示品として、全国の方々に揮毫を依頼しました。祐生蒐集の原点ともいえる全国からの恵贈品です。

『正月の華—羽子板と鞠』

12月13日(金)～2月3日(月)



羽子板は鑑賞用として美しいものが作られていますが、子どもの遊び道具としての一面もあります。あわせてご覧ください。